

平成 30 年度
鹿児島大学大学院理工学研究科入学試験
博士前期課程 数理情報科学専攻
数学

平成 29 年 8 月 21 日 13:00 - 16:00

注意

- (1) 配布物は、問題冊子 (A4, 3 枚), 解答用紙 (B4, 4 枚), 草案用紙 (B4, 4 枚) である.
- (2) 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはならない.
- (3) 出題数は **1**, **2**, **3**, **4** の 4 題で、4 題とも解答せよ.
- (4) 試験開始後、すべての解答用紙に受験番号を記入せよ.
- (5) 解答用紙が不足する場合には裏面を使用してもよい.
- (6) 問題冊子と草案用紙は持ち帰ること.

1 次の各問いに答えよ.

(1) 次の広義積分が収束するかどうか判定し, 収束するならばその値を求めよ.

$$(a) \int_0^{\infty} e^{-x} \sin x \, dx \qquad (b) \int_1^{\infty} \frac{x}{1+x^2} \, dx$$

(2) 次の関数が原点で連続でないことを示せ. さらに, 原点で x および y に関して偏微分可能であることを示せ.

$$f(x, y) = \begin{cases} \frac{x^2 + xy + y^2}{x^2 + y^2}, & (x, y) \neq (0, 0) \\ 1, & (x, y) = (0, 0) \end{cases}$$

2 次の各問いに答えよ.

(1) 次の積分の値を求めよ.

$$(a) \iint_{\substack{x^2+y^2 \leq 1 \\ 0 \leq x, 0 \leq y}} xy \, dx dy \qquad (b) \iint_{\substack{0 \leq x \leq 2 \\ 0 \leq y \leq 4-2x}} e^{2x-y} \, dx dy$$

(2) 平面 \mathbf{R}^2 上で定義された C^1 級の関数 $f(x, y)$ が, 次の条件を満たしたとする.

$$x \frac{\partial f}{\partial y}(x, y) = y \frac{\partial f}{\partial x}(x, y), \quad (x, y) \in \mathbf{R}^2$$

極座標変換 $x = r \cos \theta$, $y = r \sin \theta$ を考える.

(a) 合成関数の微分法則を用いて次を導け.

$$\frac{\partial f}{\partial \theta} = -y \frac{\partial f}{\partial x} + x \frac{\partial f}{\partial y}, \quad r \frac{\partial f}{\partial r} = x \frac{\partial f}{\partial x} + y \frac{\partial f}{\partial y}$$

(b) $f(x, y)$ は, ある 1 変数関数 F を用いて $f(x, y) = F(r) = F(\sqrt{x^2 + y^2})$ と書き表せる, つまり θ によらないことを示せ. さらに, $F(r)$ が C^1 級であることを示せ.

(c) 次の等式を示せ. ただし, 関数 F は (b) で得られた関数とする.

$$\iint_{x^2+y^2 \leq 1} \left(x \frac{\partial f}{\partial x} + y \frac{\partial f}{\partial y} \right) dx dy = 2\pi \left\{ F(1) - 2 \int_0^1 r F(r) \, dr \right\}$$

$$\boxed{3} \quad A = \begin{bmatrix} 2 & 4 & 3 & 5 \\ 7 & 14 & 8 & 15 \\ 3 & 6 & 4 & 7 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{a} = \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{0} = \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} \text{ とし, 連立 1 次方程式 } A\mathbf{x} = \mathbf{0} \text{ の}$$

解空間を W とする.

- (1) W の基を 2 組あげよ.
- (2) W の有限個のベクトルの組で, W を生成するが W の基ではないものを 1 組あげよ.
- (3) 集合 $\{\mathbf{x} \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$ と集合 $\{\mathbf{a} + \mathbf{w} \mid \mathbf{w} \in W\}$ が等しくなるような \mathbf{b} を求めよ.
- (4) (3) で求めたベクトル \mathbf{b} に対して集合 $\{\mathbf{x} \mid A\mathbf{x} = \mathbf{b}\}$ と集合 $\{\mathbf{c} + \mathbf{w} \mid \mathbf{w} \in W\}$ が等しくなるようなベクトル \mathbf{c} で, \mathbf{a} と異なるものを 1 つあげよ.

$\boxed{4}$ U, V を体 K 上のベクトル空間, $T: U \rightarrow V$ を線形写像とし, T の核を $\text{Ker}(T)$ と書く. さらに, U 上の関係 \equiv を次のように定める.

$$\mathbf{u} \equiv \mathbf{u}' \iff \mathbf{u} - \mathbf{u}' \in \text{Ker}(T)$$

- (1) 関係 \equiv が同値関係であることを示せ.
- (2) $\{\mathbf{u} + \mathbf{w} \mid \mathbf{w} \in \text{Ker}(T)\} \subseteq \{\mathbf{u}' + \mathbf{w} \mid \mathbf{w} \in \text{Ker}(T)\}$ ならば $\mathbf{u} \equiv \mathbf{u}'$ であることを示せ.
- (3) \equiv に関する商集合を $U/\text{Ker}(T)$ と書く.
 - (i) T が零写像のとき, $U/\text{Ker}(T)$ はどのような集合か答えよ.
 - (ii) T が同型写像のとき, $U/\text{Ker}(T)$ はどのような集合か答えよ.